

「西田さんは主張のまったく違う首相をなぜ批判しないの
ですか？」

平成 27 年 3 月 10 日

●田中一郎さんからの質問

最近今まさに日本が解体されようとしていると感じます。そこで思ったのですが西田さんは安倍首相に全く批判を行わず肯定しかしていないように見えるのですが一体なぜですか？西田さんの主張と完全に逆を行く政策をやられているのに何故それを全力で応援しているのか意味が分かりません。

●西田昌司の答え

「西田さんは安倍総理に甘くはないですか？」「安倍総理は新自由主義者だ。このままでは日本が解体されてしまう。今こそ暴走を止める時だ」といったご意見を私もよく頂戴しますし、そのような批判はごもっともだと私も思います。しかし、今の状況では安倍総理よりも総理として適格な人物はいない、と私は感じていますので、私は安倍総理を精一杯サポートする所存です。

安倍総理の経済政策は「岩盤規制の撤廃」と称して「法人税減税、農協改革、電力自由化」といった非常に新自由主義的なものがあるのも事実ですし、それらをそのまま通されないように私もいろいろな所で体を張って闘っています。その一方で、安倍総理はご自身が得意とする外交・防衛安全保障といった方面では、信念を持ってしっかりと事に当たられているのは皆さんもお感じになられているだろうと思います。安倍総理もスーパーマンではありませんし、安倍総理が全て正しいというわけでは当然ありませんが、だからといって他の人に替えたなら今よりも良くなるかといえばそんな単純な話ではないのです。

私は、安倍政権を安定させるよう安倍総理の正しいところはしっかりと応援しますし、逆に問題のある点については党内で徹底的に議論をして軌道修正するよう努めています。「安倍総理や官邸の方針には従わなければならない」という全体主義には絶対に陥ってはなりません、残念ながら最近はそのようなきらいがあるように感じられます。そうならないためにも、いろいろな問題について皆で徹底的に議論することが大事です、議論を深めることで互いの思い違いにも気が付き、皆の知恵が結集されて、よりよい解決の糸口も見えてくるわけです。明治天皇が「五箇条の御誓文」の第1条で示されたように、政治の意思決定は「万機公論に決すべし」です、皆で議論して上手く前に進められるのは日本人の特性であると思います。

ここで簡単に農協改革についてお話しします。二次産業や三次産業は法人が主体ですが、一次産業だけが協同組合の形をとっており、中央会（都道府県段階）・全中（全国段階）が単位農協を指導し、全中は農協の監査サービスを独占する権利を特別に持っています。特別民間法人の全中を、経団連のように一般社団法人にしてもっと緩やかな組織にすべきという意見もあり、今回の農協改革では全中の一般社団法人化がクローズアップされています。多様な農業経営の可能性を探るためにも、今のやり方を見直すべき点も当然あるでしょうし、全中の一般社団法人化に関しては私も賛成をしたわけです。これから、株式会社を参入させて農業の生産性を上げるべきという議論も活発になるでしょうが、株式会社の目的は利益の追求です、その株式会社に農業生産を委ねてしまうと食料安全保障を解体して亡国につながりかねませんので、これからしっかりと議論をしていかなければならないと思っています。

次に電力自由化に関してですが、電力自由化して発送電分離をすると、発電事業に電力会社以外の事業者が参入してきますが、費用がかかって利益の出ない送電事業は電力会社がやるしかありません。利益の出る発電事業のみに他の事業者が参入するとなると電力会社は持ちませんので、いかに送電事業を圧迫しないようにするかが問われます。また、新規参入した発電会社は、電力会社と同様に海外から鉱物性燃料を輸入しなければなりません、

鉱物性燃料の売り手からすれば「買い手が増えた」ことになり、価格をつり上げられることになるでしょう。電気料金の引き下げを狙ったつもりが、かえって引き上げを招く危険があるわけで、原発を止めて海外からの鉱物性燃料輸入に依存している現在では意味がありません。発送電分離の法律は作られはしましたが、原発を止めて電力供給が逼迫して不安定である現在の状況では発送電分離が出来ない、という条項がその中に含まれています。

安倍総理の足らざる点、誤った点については我々与党の人間がしっかりと補足・修正をしなければなりませんし、自民党はこれまで野党に比べてしっかりと議論のできる党でありました。であるからこそ政権担当能力があると言われて長年に渡って国民から支持もされてきたのですから、議論ができるという自民党の伝統はしっかりと守らなければなりません。今は安倍総理をサポートする選択肢しかないというのが現実ですから、何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>